

県立大大学院の総合学府新設

評価委「認めるべき」

県立大を運営する県公立大学法人（竹内宏理事長）と公立大学法人静岡文化芸術大（有馬朗人理事長）の業務実績などをチェックする評価委員会

の本年度第1回会議が19日、県庁で開かれた。県立大が6月に発表した大学院への「薬食生命科学総合学府」新設について、評価委は「認めるべき」との判断を示した。

総合学府新設の狙いについて、県立大は「高齢化社会が進行する中、薬学と食品栄養科学の両面から健康長寿をとらえられる高度専門職能人や指導者を育成する」と説明。委員から名称などに関する質問が出たものの、反対意見はなく、新設を盛り込んだ中期計画変更案について「認可するのが適当」とする意見を、県に提出することを決めた。

会議では、委員長に岡野光喜スルガ銀行社長を再任した後、両法人幹部がそれぞれ2010年度の業務実績とその自己評価、財務諸表の内容などを報告した。

業務実績などの評価は両法人の自己評価や、この日、委員から出た意見を踏まえ、8月の次回会議で正式にまとめる。静岡文化芸術大は同法人に移行して初めて、評価委の評価を受ける。